

藤枝市中心市街地活性化協議会 会議録

会議名	平成29年度第3回藤枝市中心市街地活性化協議会
日時	平成29年9月21日(木) 10:30~11:30
場所	藤枝商工会議所 4Fホール
出席者	<p>会 長 山田壽久</p> <p>委 員 松浦正秋、大塚博巳、栗田隆生、八木重樹、秋田弘武、内記秀夫、島村武慶、寺島雅之、北島多喜子、仲田和好、山本和子(代理)、 栃本英雄、鈴木健夫、高井賢一、鈴木寿幸、柳川利明、青島勝昭、 山田 光、本多和彦、梅島純夫、小林浩樹、中澤 渉(代理) 大石茂樹(代理)、</p> <p>委任状出席 江崎晴城、杉浦 衛、秋原恭大、田口敏行、渡邊芳隆、</p> <p>オブザーバー 藤枝警察署 石川武男、渡邊崇彦 静岡県経済産業部商工業局地域産業課 影山敦彦</p> <p>藤枝市中心市街地活性化推進課 課長 増田政巳 係長 岡村敏明 係長 石橋徹也 山村浩二</p> <p>藤枝市商業観光課 課長 谷口昌教 係長 青嶋和徳</p> <p>(株)まちづくり藤枝 水江志麻</p> <p>藤枝商工会議所 事務局長 加藤久芳 課長 徳浪和浩 課長補佐 小野和紀 八木明日香</p>
内 容	<p>◆議 題</p> <p>(1) 第2期中活計画の変更について</p> <p>(2) 第3期中活計画の素案について</p> <p>◆情報交換</p>
会議の経過	<p>徳浪課長の司会により開会</p> <p>始めに、山田会長より挨拶があり、内容に入った。</p> <p>◆内 容</p> <p>(1) 第2期中活計画の変更について</p> <p>中心市街地活性化推進課石橋係長より資料1に沿って説明。 第2期計画について、事業の追加や事業内容の変更等が生じたため、変更認定申請を行う。</p>

<p>会議の経過</p>	<p>田沼一丁目3地区マンション整備事業の他、静岡産業大学駅前キャンパス新設に伴う関係事業が中心。その他には、(株)まちづくり藤枝が関わる事業で、今年度中の取り組みを開始する事業も追加となる。事業内容の変更は4点あり、事業の遅れに伴う時期のずれ込みや支援措置の内容が具体化したことから生じたもの。</p> <p>説明終了後、山田会長より、意見・質問を求めたが特になく、承認された。</p> <p>(2) 第3期中活計画の素案について</p> <p>中心市街地活性化推進課岡村係長より資料 2-1、資料 2-2、藤枝市中心市街地活性化基本計画（素案）に沿って説明。</p> <p>前回の骨子から内閣府からの指摘により変更になった部分があり、資料 2-1、資料 2-2 より説明。</p> <p>内閣府からの主な指摘事項としては、成果、課題、衰退要件の分析をしっかりとめる必要がある、課題に対して客観的データを活用して計画策定をすることが重要である。また、課題に対して方針や目標、指標、事業のつながりがわかりやすい計画を策定すること。さらに駅北地区の再生がポイントであるとのことであった。</p> <p>修正ポイントとしては以下の2つ。</p> <p>① 4つの課題についての表現を少し変更し、「暮らし」と「賑わい」2つの方針につながるように整理</p> <p>② 3つの基本的方向性を取りやめ、課題から基本方針、テーマ、目標というように整理目標についても一部修正したが、基本的な考え方については変わっていない。また、前回掲載していなかった指標、主要事業を掲載。</p> <p>藤枝市中心市街地活性化基本計画（素案）については、内閣府の認定支援マニュアルに沿って作成。</p> <p>第3章の「中心市街地の活性化の目標」、4～8章の掲載事業に関する事項が今回の会議におけるポイントであることを踏まえた上で、目次を見ながら、1章～12章までにどんなことが書かれているかを説明。</p> <p>国との協議は、内閣府の他にも経産省、国交省、総務省と行っており、計画の概要説明やそれぞれに関係する事業の事前協議を行っている状況。</p> <p>経産省、国交省とは8月に事前協議を行ったが計画概要・掲載事業ともに問題はないとの回答。総務省についても、担当者と電話等により協議中だが現時点では問題ない。</p> <p>今後の策定スケジュールについては、今回の協議会での意見等を受けて、10月21日から11月14日までパブリックコメントを行い、11月末に第4回協議会を開催してその結果を報告。協議会からの意見書を計画に掲載した後、平成30年1月に内閣府に認定申請して3月末の認定を目指す。</p>
--------------	--

<意見、質問>

・ 駅南地区活性化連絡会議座長 仲田委員

アピタ藤枝店跡について、年内に解体予定。新しい開発計画が年内にでも出てきた場合、インパクトが大きいと思うが、どういった位置づけになるか。

→増田課長が回答

年内には解体を終えると聞いている。現在、開発業者からの提案を受け付けている段階だと聞いている。市としては、認定のメリットを活かした補助策や支援策の紹介等をしているところ。中活計画への位置付けについては、説明にもあったように、実施予定や実施見込みがあるもの、また計画期間内に効果が発現できものに限られるので、熟度が増した段階で載せていきたい。計画の変更は年3回可能である。

・ 駅前商店街振興組合理事長 北島委員

6街区市街地再開発事業や JR 藤枝駅北口の商業施設について進展があるのか状況を知りたい。

→増田課長が回答

6街区については、地権者と協議を進めている。事業協力者やコンサルタント、市も関わって話を進めている。未同意地権者からの要望がはっきりとしてきており、それに対して現在最終的な提案をしているところ。感触としては、前よりも進展している。

JR 藤枝駅北口の商業施設については、「テナントが決まったら開発を進める」というのが JR 東海の方針であり、駅南口の商業施設については、テナントが5店舗決まったので再整備している。駅北口については事業者がまだ決まっていない状況と聞いている。

・ (株)まちづくり藤枝専務 栃本委員

BiVi 藤枝内の駅前キャンパスの新設に伴い、まちづくり藤枝が関わる新たな事業が第2期計画の変更の中にあり、「産学官連携推進協議会」という名称がよくでてくるが、どういうメンバーでどういう風にいつ頃までにやっていくものなのか。

→秋田部長が回答

産学官連携推進センターについては10月14日の開所に向けて準備を進めている。指定管理者制度を用いて、静岡産業大学に管理運営を担っていただくということで進めている。ABC クッキングスタジオと食を中心とした地域振興に取り組み、SBS学苑、東海ケーブルネットワーク等とも連携して色々な事業を行っていく。産学官連携推進センターというのは、市の公共施設としての位置づけのほか、静岡産業大学駅前キャンパスとして大学生の講義の場、中小企業支援・産業支援の活動の拠点としても期待。エフドア、ICT コンソーシアムもセンター内に入居。様々な角度からの産業支援を商工会議所と連携して行っていきたい。

→栃本委員

連携推進協議会といった組織はできるのか？

→秋田部長が回答

大学、商工会議所、金融機関等々と一緒に産業支援を行っていく。

・静岡県経済産業部商工業局地域産業課長兼商業まちづくり室長 影山氏

指標を「空き店舗数」としている。指標として有り得なくはないが、空き店舗を無くすことが目標ではないので、内部資料としてはよいが、計画としては新しい店舗がどれだけ出てきたかといった方が前向きな指標になると思う。仮に空き店舗が駐車場になれば、趣旨と違うことであるが目標を達成していくことになってしまう。

→岡村係長が回答

指摘していただいたように、もともとは新規出店者数を目標に掲げて検討してみたが、衰退要件を出すための新規出店のデータが過去2年分しかなく推計が出しにくかったこと、また、新規出店の場合、掲載事業による目標数値の積み上げが難しいことなどから、いろいろな検討をしていく中で、空き店舗に焦点を当てて、指標として掲げるところとなった。空き店舗の解消は、市としても重要課題と位置付けて取り組んでいる。なお、空き店舗数を指標とすることについて、内閣府の理解は得ている。

・青島第2自治会会長 青島委員

田沼地区に関連したことで、92頁に「田沼一丁目3地区マンション整備事業」がある。それに伴い、113頁に田沼の踏切の問題について少し載っているが、もう少し具体的に知りたい。

→増田課長が対応

田沼踏切についてはようやく国の指定踏切となり、JRも協議に応じなくてはいけない状況になってきている。現在は調査に入ったところであり、協議についてはこれから行っていくことになる。具体的な時期もまだ決まっていない。

→青島委員

駅南の田沼地区では交通量が増え、朝夕の渋滞が頻繁に発生。小学校の子どもたちの行き帰りの見守りをしているが、田沼の歩行者信号の待ち時間が長い。地域住民の回遊性も悪くなる。そういったことも具体的に計画の中に入れられないか。

→藤枝警察署交通規制係長 石川氏が回答

田沼街道については今年の3月に北進について改良し、市外方向については流れがよくなったが、南進は混み合っている。北進の方が混むので優先的に改良した。南北の幹線道路は田沼街道と田沼踏切と志太西線（青島高架橋）の3つしかない。

・青島第6自治会会長 柳川委員

青木でも田沼街道の歩行者信号の待ち時間が長く、子どもたちがまんさいかんのところの横断歩道を渡りきれない。青木の東西線（ホテルからまんさいかんにかけての通り）についても、駅前通りは長い、まんさいかんから西へ向かうところが短くなっているのを待たされるとの声がある。また、青木公園通りの遊歩道に人を呼び込みたいと思っている。

・藤枝タクシー㈱ 本多委員

中活の目標について67頁の部分。公共交通の立場からは人口が増えてくれれば利用して下さる方も増え嬉しいのだが、増えた方たちが実際に質の高い暮らしをしている人たちかどうか

か明確に示す補完的な指標は必要ないのか。例えば、増えた人たちの納めている税金が増えているのか、その裏づけになる消費額が増えたのか、地域の商店街の売上が増えた、増えた人たちの給料や収入がどのくらいなのか、年齢構成はどうか、産業を担う若い人たちがどれだけ増えたか、そういったことを居住人口[社会増]増加の中の補完的な、もしくはその内容を示すものがあれば、延いては藤枝市が求めている質の高い暮らしとは何か具体的に示せる。人が増え、賑わいだけ増えても、質の向上や市の発展に繋がらないと意味がないと思う。

→増田課長が回答

全国的にも人口を増やすことが難しい状況の中、年齢構成では30代、40代の子育て世代に住んでいただきたいという思いがある。子育て関係の施策やそれに併せて指標として考えていきたい。補完的指標という形のものはないので、今後考えていくことも検討。

◆情報交換

・藤枝駅前一丁目8街区市街地再開発組合理事長 鈴木委員

駅前一丁目8街区再開発については、来年1月末竣工、4月にグランドオープンの計画通り順調に進んでいる。マンションも早くに完売し、人口増の目標については貢献できていると思う。住む方々の満足度はどうなのかが今後の課題になってくる。事業が完成して終わりではなく、今後周辺の商店街の方々と連携してより活性化が進めばと思っている。

・藤枝市副市長 栗田委員

人口増の話が出たが、政策的に人口を引っ張っていかなければならない。現在藤枝市では、生まれる方より亡くなる方の方が多く、自然減の状況が顕著。いかに他市から藤枝市に住んでもらうかは大きな人口対策のポイント。転居の理由として、子どもの教育やどこで育てるかが一つの判断の基準になってくる。小学校に上がる子を持つ世代をターゲットに藤枝市を選んでもらえるよう、施策を進めている。藤枝市の出生率は平均より低い、小学校の子ども数は平均より多いので、移り住んできた子どもが多いということ。

大事なことは計画を実行し、実のあるものにしていくこと。それには皆さんの協力が必要なので今後も支援をお願いしたい。

・山田会長

藤枝市は駅周辺の活性化事業によりたいへん人気の高いまちになっている。今後も地元の方々はたいへんだと思うが、協力し合って賑わいのある計画となるようお願いしたい。

以上